

解 答 速 報

関西医科大学(後期) 英語

2019年3月2日実施

I	1	エ	2	イ	3	ア	4	ウ	5	イ
	6	イ	7	イ	8	ウ	9	ア	10	ウ

II	1	エ	2	ク	3	ウ	4	キ	5	ア
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

III	(1)	① ア	② イ	(2)	③ ウ	④ イ	(3)	⑤ エ	⑥ ア
	(4)	⑦ ウ	⑧ エ	(5)	⑨ イ	⑩ エ			

IV	1	①	that				
		⑨					
	2	②	looking	⑦	existing		
		⑤	all				
	3	③	as	⑧	for	⑯	not
	4	④	それ自体	⑥	最新の		
		⑮	忘れっぽい				
5	⑩	ウ	⑬	イ	⑭	ア	
6	⑪	us	⑫	you			

V	1	①	X	②	O	③	O	④	X	
		⑤	X	⑥	X	⑦	O			
	2	(i)	① less	② more	(ii)	subjective	(iii)	⑥ cool	⑦ warm	
	3	脳がある一つの感覚情報から複数の感覚に関わる知覚を生み出す病気								
	4	⑤ that			⑨ or					
	5	ウ								
6	緑色と青色の両方を言い表す用語									

I

1	エ	名詞	próject	動詞	projéct	: 他は	ア	cómpliment	イ	accórd	ウ	commánd
2	イ	名詞	cónflict	動詞	conflíct	: 他は	ア	dismáy	ウ	distréss	エ	báalance
3	ア	名詞	súspect	動詞	suspéct	: 他は	イ	éxercise	ウ	lamént	エ	prófit
4	ウ	名詞	cónvert	動詞	convért	: 他は	ア	bénefit	イ	cemént	エ	cómmment
5	イ	名詞	prógress	動詞	progréss	: 他は	ア	tórture	ウ	supplý	エ	rémedy
6		fou l [fául]		:	イ	county [káunti]						
					ア	country [kántri]	ウ	owner [óunə]	エ	though [ðóu]		
7		athle t ic [əθlétik]		:	イ	burial [bériəl]						
					ア	sympathize [símpəθaiz]	ウ	delivery [dilífvəri]	エ	experience [ikspíríəns]		
8		to ng ue [táŋ]		:	ウ	front [fránt]						
					ア	bosom[búzəm]	イ	brood [brú:d]	エ	song [sóŋ]		
9		negot i ate [nigóuʝieit]		:	ア	postal [póustl]						
					イ	territory [térətri]	ウ	impossible [impósəbl]	エ	association [əsousiéiʃn]		
10		astr o nomy [əstrónəmi]		:	ウ	hostile [hóstl]						
					ア	procedure [prəsídʒə]	イ	abandon [əbændən]	エ	obscure [əbskjúə]		

II

(1) エ 「(沖縄は) どうでしたか。」

“What be S like?”で「Sはどのようなものか」の意味。次の文で Cathy が「楽しかった」と答えているので旅行の感想を尋ねる文が入る。

(2) ク 「とても日焼けしているね。」

直前の文で Cathy が「天気良くて一日中ビーチにいたんだ」と話している。状態動詞の現在進行形は永続的ではない一時的状態を表す。

(3) ウ 「魅力的なところだよ。」

「(北海道は) 沖縄ほど暖かい場所ではないと思うよ。でもとても良いところなんだ。魅力的な場所だよ。(この休暇で行くまで) 北海道がどれほど美しい場所なのか実感したことがなかったよ。」

(4) キ 「あまり休暇っぽくなさそうだね。」

休暇をどう過ごしたかについて皆が語り合っている中で Jiro が「家にいて芝刈りをしていた」と言っている。それを受けての Taro の発言。

(5) ア 「だから僕たちは家にいて日帰りで出かけることにしたんだ。」

「こどもが二人ともまだ小さいし、遠出するのは大変なんだよ。ホテルに泊まるのは論外だし、キャンプでも難しい。だから家にいて日帰りで出かけることにしたんだ。」

III

(1) ① ア 「ホテル」

② イ 「彼は顧客調査に応じた」

本文 “~ and wish to express my personal thanks to you for taking time to fill in our guest questionnaire.” より。“guest questionnaire” は「お客様アンケート」という意味。

(2) ③ ウ「レストランで」

④ イ「代金を支払う」

本文 “Attached is a copy of the invoice for food and drinks consumed during the reception that you requested.” より。“invoice” は「請求書」という意味。

(3) ⑤ エ「彼女は商品を購入したい。」

⑥ ア「銀行口座振替による」

本文 “Payment of NZ\$4,000 will be made by bank transfer.” より。

(4) ⑦ ウ「彼女は購入した商品に満足していない。」

本文 “we regret your discontent with our product” より。

⑧ エ「上記のいずれでもない。」

ア「彼女は返品をする。」は本文 “we are not prepared to accept the processor if returned” より×、

イ「彼女はトーマスさんに返金する。」

ウ「彼女はトーマスさんに代用品を送る。」は本文 “will have no choice but to insist on payment of the contracted amount.” より×

(5) ⑨ イ「求人情報」

本文 “the position advertised has been filled” “Personnel Department[人事部]” より。

⑩ エ「彼女は他の仕事を探す。」

IV

1 [空所補充：選択肢無し]

①：第1段落第2文。“Recent research makes the case (①) being forgetful can be a strength ~”

第7段落第1文。“~ our brain is making a choice (⑨) these details do not matter.”

ともに空所の直後は完全文。空所には同格の that が当てはまる。

make the case that SV は、「~と主張をする」

2 (i) [動詞の変化]

②：第2段落第2文。“But (②:look) through years of recent memory data, researchers ~ found that ~”

(②:look) through years of recent memory data は分詞構文。

意味は「数年にわたる最近の記憶データを調べていると」。答えは “looking”

⑦：第4段落第3文。“~, which have the power to overwrite (⑦:exist) memories ~”

(⑦:exist) memories は overwrite の目的語。

意味は「すでにある記憶に上書きする力がある」。答えは “existing”

(ii) [空所補充：選択肢無し(頭文字指定あり)]

⑤：第4段落第1文。“~ does not mean you need to have (⑤) the information at hand, ~”

(⑤) the information を have の目的語と考え、a から始まり、かつ the の前に置くことができる単語を推定する。

意味は「あなたは全ての情報を手元に置いておく必要があることを意味しているわけではない」。

答えは “all”。

3 [空所補充：選択肢無し]

③：第2段落第2文。“~ the neurobiology of forgetting can be just as important to our decision-making (③) what our minds choose to remember.”

原級比較の構文。The neurobiology と what our minds choose to remember を比較している。

意味は「忘却の神経生物学的仕組みは、私たちの意思決定にとって、頭の中で記憶すべきものとし

て何を選び取るかとちょうど同じくらい重要になりうる」。答えは“as”。

- ⑧：第5段落後半。“～ make it harder (⑧) you **to make** an informed decision ~”
文構造は make OC。it は to make ~ に対応する仮目的語。you は to make の意味上の主語。
意味は「～はあなたが情報を得た上での意思決定をしにくくする」。答えは“for”。
- ⑯：最終段落最終文。“～ when we aim to remember the right stories, (⑯) every story.”
A, not B (=not B but A) 「BではなくA」と考える。
意味は「私たちはどの話も記憶するのではなく、覚えておくに値する話を記憶しようとする時」。
答えは“not”。

4 [部分訳]

- ④：“The goal of memory is not the transmission of information through time, **per se**.”
「記憶することの目的は、長期にわたって情報を伝達すること それ自体ではない」。
- ⑥：“～ the most **up-to-date** information on clients and situations.”
「顧客や状況についての 最新の情報」。
- ⑮：“We can get critiqued for being **absent-minded** when we forget past events in perfect detail”
「私たちが過去の出来事を完全に忘れてしまうと 忘れっぽいことを理由に批判されかねない」。

5 [空所補充：選択肢有り]

- ⑩：第7段落第2文をよく見ると，“～the occasional lost detail can be a sign of a (⑩) healthy memory system.”
とあり、ウ“perfectly”を入れると、「ところどころ細かな情報を忘れてしまっても、それは記憶力が申し分なく正常に働いている証となるだろう」となり意味が通る。
- ⑬：第8段落第1文をよく見ると，“～ and how (⑬) things are to come back into your life, ...”とあり、イ
“likely”を入れると、be likely to do～「～しそうである」であることから、「物事があなたの人生において
どれほど再来しそうであるか」となり意味が通る。
- ⑭：第9段落第2文をよく見ると，“If this is someone you may never meet again, your brain will weigh that
information (⑭).”とあり、ア“accordingly”を入れると、「もしこの人物とは二度と会わないような
ら、あなたの脳はそれに応じてその情報をさほど重要ではないものと評価するだろう」となり意味が通
る。

6 [文中語句整序]

- ⑪：The researchers found that [us / stopping / our brains / from / focusing / facilitate / decision-making / by] too
much on minor past details.
動詞が facilitate しかないので、主語は複数形の our brains に決まる。これで基本構造は、our brains
facilitate O by～「我々の脳は～によってOを容易にする」だと想定できる。また、stop O from doing の
形を想像できれば、これに us と focusing を当てはめた stopping us from focusing は「我々が集中する
のを妨げる」の意味になる。あとは stopping と decision-making のうち、どちらが facilitate の目的語で
あり、どちらが by の目的語であるか文脈を踏まえ検討すればよい。
解答は、“～our brains facilitate decision-making by stopping us from focusing too much on minor past details.”

⑫ : One of the things that distinguishes an environment where you're going to want remember stuff [an environment / forget / stuff / to / versus / want / where / you] is this question ~

直前にある an environment where you're going to want remember stuff と似た構造を想定すると, an environment where you want to forget stuff を作ることができる。この両者を distinguish A versus B の形で並べると「AをBと区別する」の意味になる。

解答は, “~distinguishes an environment where you're going to want remember stuff versus an environment where you're going to want remember stuff ... ”

V

1 [内容一致・不一致問題]

- (1) X 「正常な視覚を持つ人は皆、色を同じように識別している」。第2段落第2文にあるように、錐体細胞の分布や密度が人により異なることから、正常な視覚を持つ人でも色の感じ方はわずかに異なるので、この文内容は誤りである。
- (2) O 「人間の脳は実際に存在している色を正確に識別しているのではなく、識別するだけの意味がある場合にそれを識別するのである」。第3段落第1文にあるように、色を知覚するということはその場実際にあるものを見るということよりもむしろ、脳が色を解釈し、意味を与える方法により大きく関係しているため、この文内容は正しい。
- (3) O 「ファッションの専門家や画家は一般人に比べて色と色の違いをより詳細に区別する」。第7段落にあるように、画家やファッション専門家は色に関する専門用語を用いて、素人にはどう見ても一つの用語でしか表現できないような色調や陰影に言及し、区別するので、この文内容は正しい。
- (4) X 「色を表す語を持たない言語は世の中に全く存在しない」。第9段落第1文にあるように、オーストラリアのノーザンテリトリーに住むワルピリ族は色という単語に相当する用語を持っていないので、この文内容は誤りである。
- (5) X 「現代の中国では、元来青と緑の両方を意味した単語が、緑にのみ限定されており、異なる言葉を使い、青を意味している」。第11段落第2文には、今日、ノルウェー、日本、中国では、もともと青と緑を表す言葉が青に限定されたとあり、「緑」ではないので、この文内容は誤り。
- (6) X 「我々が幼児期に身に着ける色の知覚方法は生涯を通して、決して変わることはない」。第13段落第1文にあるように、我々が色を認識する方法は生涯を通して変化しようと述べられているので、この文内容は誤りである。
- (7) O 「言語が脳に与える様々な影響は色の知覚に限定されるわけではない」。第15段落第1文に、これは色に関してだけ起こるものではない、とあるのでこの文内容は正しい。

2 [空所補充：選択肢有り]

- (i) ① less ② more

「我々の生物的なつくりが個人ごとに異なっているのに加え、色を知覚するということはその場に実際にあるものを見るということよりもむしろ、脳が色を解釈し、意味を与える方法により大きく関係しているためである。」から考える。

- (ii) subjective

「色の知覚は主に我々の頭の中でなされるものであり、そのため、(③)である。そして個人的な経験による傾向がある。」から考え、subjective「主観的な」を選ぶ。

- (iii) ⑥ cool ⑦ warm

「これらの言語では、暗いものはおおよそ冷たいものとして解釈され、明るいものはあたたかいものとして解釈される。そのため、黒や青、緑のような色は(⑥)の色として解釈され、一方で白、赤、オレンジ、そして黄色のようなより軽い色は(⑦)の色として解釈される。」から考える。

3 [語句説明問題]

「脳がある一つの感覚情報から複数の感覚に関わる知覚を生み出す病気」

第3～4段落を利用して解答をまとめる。簡潔に、という指示があるので、全て具体例のみで答えを構成しないことが望ましいだろう。以下は4段落の記述内容。「synaesthesia (共感覚)を持っている人を例に考えてみよう。共感覚のある人は、文字や数字を知覚するとき色を体験することができる。共感覚はしばしば、複数の感覚の結合状態、と説明される。そうすると、人によっては色を見て音を聞いたり、音を聞いて色を見たりできるのだ。しかし、彼らが音を聞いて見える色もまた状況次第で変わる。」から考える。

4 [空所補充問題] (英文に対する___は主語, ___は動詞,は目的語, < >は副詞要素を表す。)

空所(5)は本文中に2カ所用意されている。一つ目は、

“Painters and fashion experts, for example, use colour terminology <to refer to and discriminate hues and shades

S

V

O

(⑤) <to all intents and purposes> may all be described <with one term> <by a non-expert>.”

?

V'

⑤の空所の直後に“to all intents and purposes[どうみても、事実上、實際上]”という副詞句が入り込むことで捉えにくくなっているものの、明らかに“may~be described”という動詞があること、その前に主語になり得る名詞はないこと、から主格の関係詞が必要であることがわかる。もう一つの空所(5)を検討する。

“(⑤) is, these languages do not have separate terms for “green” and “blue” but use one term to describe both colours, a sort of “grue”.

これは明らかに、that is と決まる。ということで、2つ目の空所で判断する方が効率良く答えを出せる。

空所(9)を含む1文を確認してみよう。

“This is **either** developed from within the language — as is the case for Japanese — (⑨) through lexical borrowing, as is the case for Welsh.”

“either”があることを見落とさなければ、orを入れることはわかる。対比された要素は、“from within the language[言語それ自体のうちから]”と、“through lexical borrowing[語彙借用によって]”となり、意味としても間違いないことが確認できる。

5 [空所補充問題]

空所(10)～(12)に入れるべき単語の組み合わせを選ばせる問題。順に本文を確認する。

“Russian, Greek, Turkish and many other languages also have two (⑩) terms for blue — one referring exclusively to darker shades, and one referring to lighter shades.”

ロング・ダッシュに続いて説明がなされており、青を言い表す2つの用語があることがわかる。従って入れるべきはアもしくはウの separate とわかる。

次に(⑪), (⑫)である。

“The way we perceive colours can also change during our lifetime. Greek speakers, who have two fundamental colour terms to describe light and dark blue (~), are more prone to see these two colours as more (⑪) after living for long periods of time in the UK. There, these two colours are described in English by the (⑫) fundamental colour term: blue.”

「我々の色の知覚の仕方は障害を通じて変化することもある。ギリシャ語話者は薄青と濃青を言い表す2つの基本的用語を使っているが、これらの話者も長い年月イギリスで生活した後にはこれらの2つの色をより(⑪)なものともみなすようになりがちである。というのもイギリスでは、これら2つの色は、色を表す基本的な(⑫)な用語、つまり青によって言い表されるからだ。」

⑪の前には more があるので、比較級を作ることのできる形容詞である必要がある。つまり similar と決まる。これで答えはウと決まる。

では not only to do ... but also ... という構造から、but also の後ろにも to do~ が続くと想定できる。さらに空所(7)に to を入れてみると allow O to do ... となり、間違いないことがわかる。

6 [語句説明問題]

下線部⑧の“grue”という用語の意味を説明する問題。

“~, these languages do not have separate terms for “green” and “blue” but use **one term to describe both colours**, a sort of “grue”.

本文中の定義に基づいて、「緑色と青色の両方を言い表す用語」と説明できる。

講評

- | | | |
|--------------|------|--|
| I [発音・アクセント] | (標準) | 前半は名詞と動詞でアクセントが変わらない語を選ぶ問題で、戸惑った人もいるかもしれない。後半は発音・アクセント融合問題で、基本的。 |
| II [対話文完成] | (易) | 標準的な会話問題。やや迷う選択肢もあるが全体として難しくない。 |
| III [空所補充問題] | (標準) | e メールを使った空所補充問題。読みやすい内容だが一部語彙が難しいものもあった。 |
| IV [長文問題] | (標準) | 話題は「忘れっぽさが持つ利点について」。前期に引き続き、動詞の活用変化が出題された。難易度は例年並み。 |
| V [長文問題] | (標準) | 話題は「色を表す用語による知覚の違いについて」。難易度は例年並み。 |

前半の大問3題の分量が若干増えたが、大問IVの分量は減ったので、全体としては例年並みの得点が必要だろう。目標は65%

医学部進学予備校

メビオ

〒540-0033 大阪市中央区石町2-3-12 ヘルヴォア天満橋

 0120-146-156

<https://www.mebio.co.jp/>


MeBio
Scholastics